

# バレーボール 「アクション&レガシー」プラン

2016年11月25日

私共公益財団法人バレーボール協会は、バレーボール界が一丸となってバレーボールの発展をもって社会に貢献するため、長・中期計画を策定しました。

老若男女がそれぞれの嗜好にあわせて楽しめる競技性、スポーツ自体のもつ大きな価値を社会に還元できるよう、全力で取り組む所存です。

ただしその中で、**切実な問題の一つとして、「会場ブッキング」**があります。近年、フットサルやその他の新しいアリーナスポーツも盛んになってきたこともあり、これまで以上に国際大会／国内の主要な大会の会場調整が難しくなっています。

そうした中、オリンピック会場として建設が予定されている有明アリーナは、私共バレーボール界のみならず、アリーナスポーツ関係者にとっては、非常にありがたいニュースの一つでありました。

東京でも数少ない、国際大会を開催できる規模の会場は経年劣化が進み、どこかひとつでも改修時期となると、それこそ大会の開催自体が危ぶまれる事態になりかねません。国内外を問わず、アクセスの便が良い有明アリーナの建設は、この20年にわたり、毎年国際大会を招致、開催してきているバレーボール界にとっては、欠かすことのできない施設であると考えております。

## 有明アリーナを、バレーボールの新たな聖地に。

**老若男女がそれぞれのペースで楽しむことができるスポーツ**だからこそ作っていくことができるレガシー。バレーボールのレガシーのために、有明アリーナは必要不可欠であることをご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

# INDEX

「アクション&レガシー」プラン策定にあたり	2
【1】 バレーボールを取り巻く現状	4
1.日本バレーボールの歩み	5
2.バレーボールの広がりについて	6
3.バレーボールの競技人口について（男子）	7
4.バレーボールの競技人口について（女子）	8
5.生涯スポーツとして根付くバレーボール	9
6.競技スポーツとしてのバレーボールが抱える問題点	10
7.日本における国際大会の開催実績	11
8.スポーツにおける会場確保の困難さ	12
9.バレーボールが持っているポテンシャル	13
有明アリーナ建設への思い	14
【2】 アクション&レガシープラン	15
1.バレーボールが考える「アクション&レガシー」プランの前提	16
2.レガシープラン全体像	17
3.バレーボールアクション&レガシープラン①「健康・スポーツ」	18
4.バレーボールアクション&レガシープラン②「街づくり・持続可能性」	19
5.バレーボールアクション&レガシープラン③「文化・教育」	20
6.バレーボールアクション&レガシープラン④「経済・テクノロジー」	21
7.バレーボールアクション&レガシープラン⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」	22
8.有明アリーナを2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーに	23
さいごに	24



**Japan Volleyball Association**






# 【1】 バレーボールを取り巻く現状

---



1960年より国際大会に参加した全日本男女バレーボールチーム。  
1964年に開催された東京オリンピックで正式種目となったバレーボールでは、「東洋の魔女」の愛称で親しまれた全日本女子バレーボールチームは金メダルを、全日本男子バレーボールチームは銅メダルを獲得。

その後、全日本男女は国際バレーボール連盟が主催する3大大会に限ってみても、下記の通り、輝かしい成績を収めてきました。

		 金メダル	 銀メダル	 銅メダル	
全日本男子	オリンピック	1	1	1	
	世界選手権	0		0	2
	ワールドカップ <sup>o</sup>	0		2	0
全日本女子	オリンピック	2	6	2	
	世界選手権	3		3	1
	ワールドカップ <sup>o</sup>	1		2	0

(2016年11月現在)



## 2.バレーボールの広がりについて

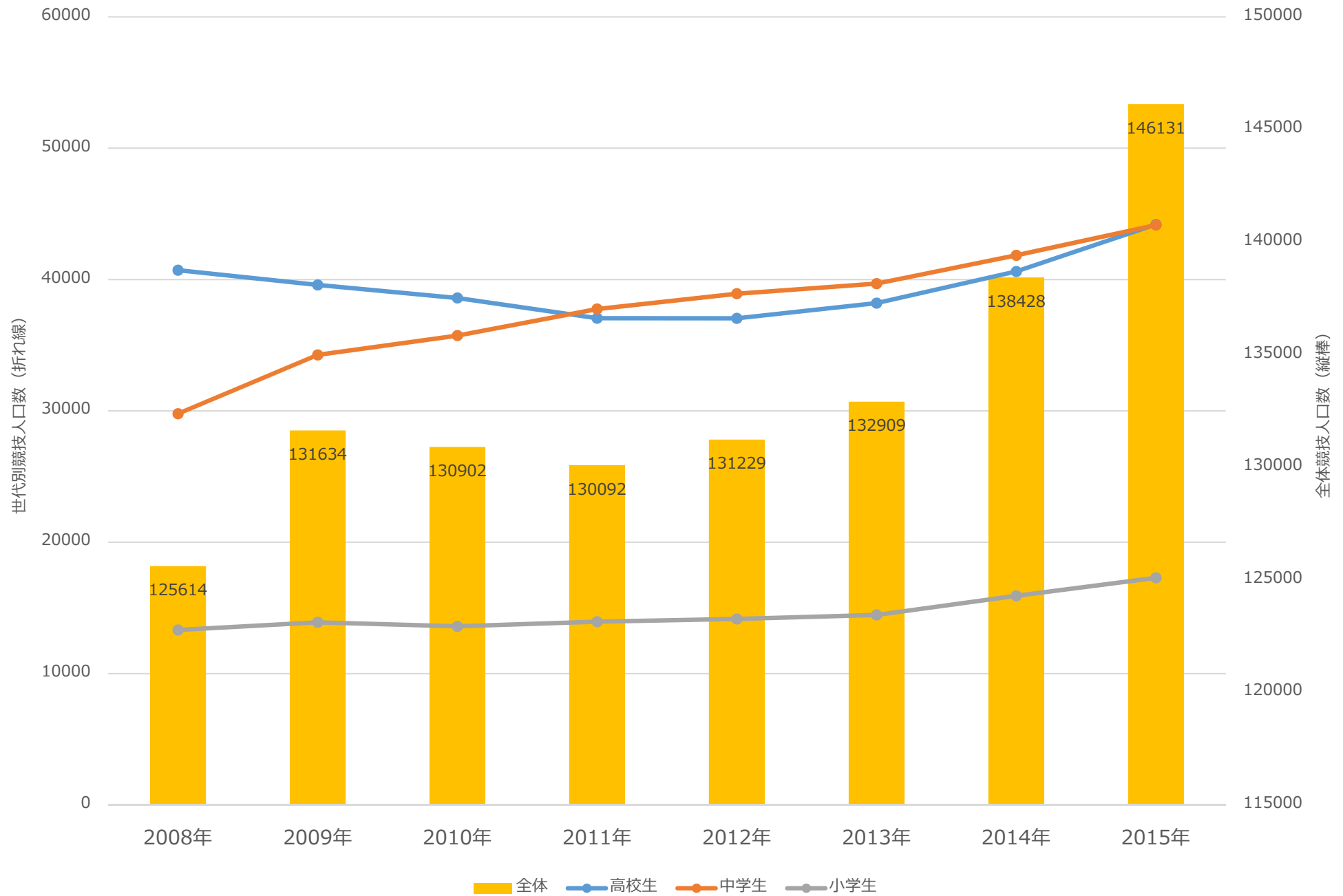
競技として高みを極めるトップリーグから、生涯スポーツとして老若男女が、体力やメンバーによって違った楽しみを感じられるスポーツとして、バレーボールは日本社会に根付いています。

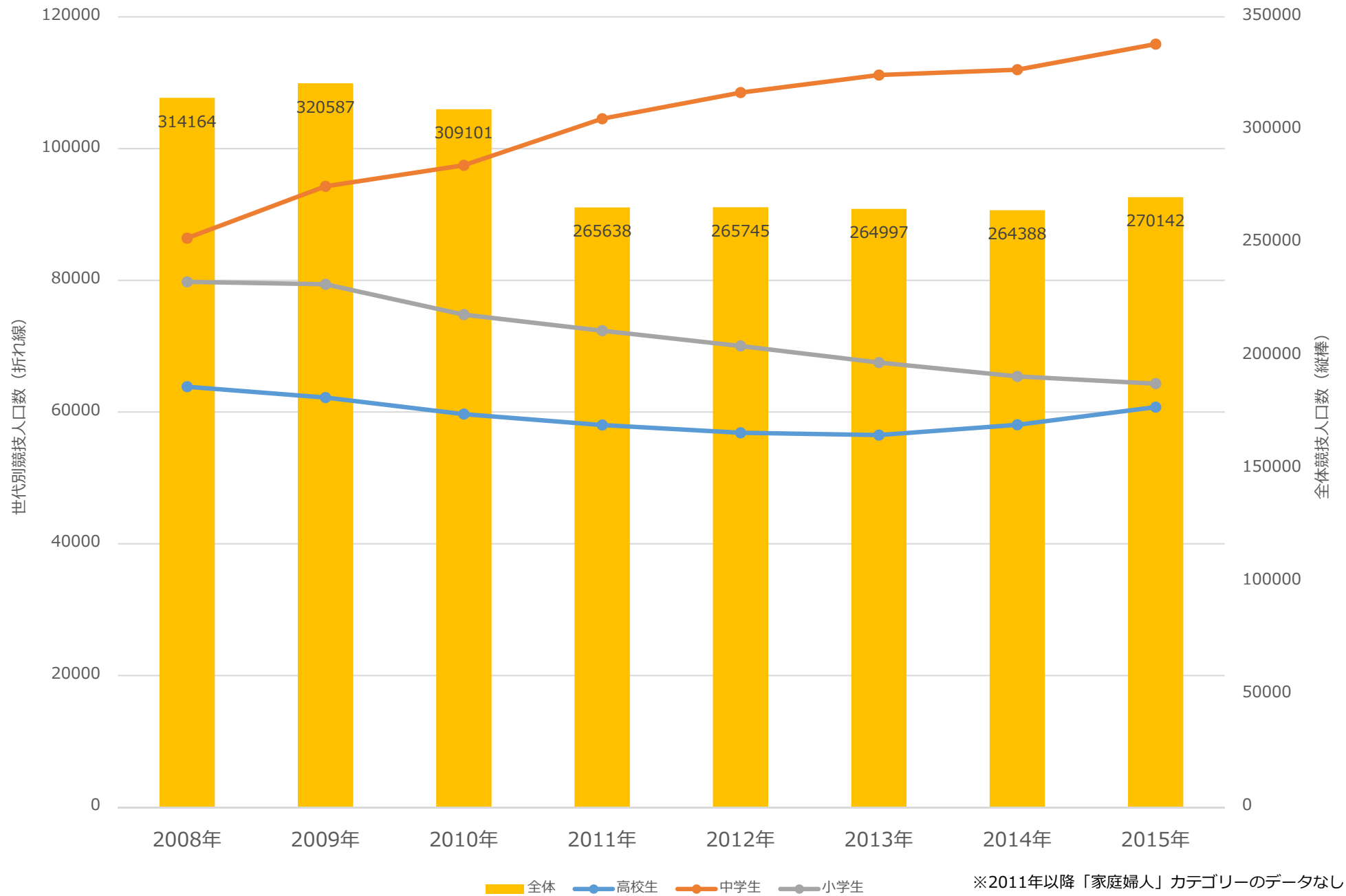
スタイル	2人制	4人制	6人制	9人制（8人制）	
対象	ビーチバレーボール	ソフトバレーボール/ ビーチバレーボール	男女（全世代）	男女（全世代） /ママさん	
構成/協力 団体	<b>公益財団法人日本バレーボール協会</b>				
	全日本男女代表		全日本男女代表		
	日本ビーチバレーボール連盟		一般社団法人 日本バレーボールリーグ機構	一般社団法人 全国ママさんバレーボール連盟	
			日本ソフトバレーボール連盟	日本実業団バレーボール連盟	
				日本クラブバレーボール連盟	
				全日本大学バレーボール連盟	
			障がい者バレーボール	公益財団法人 全国高等学校体育連盟 バレーボール競技部	
			一般社団法人 日本パラバレーボール協会	日本ヤングクラブ バレーボール連盟	
			一般社団法人 日本デフバレーボール協会	公益財団法人 日本中学校体育連盟 バレーボール競技部	
			日本フロアバレーボール連盟	日本小学生バレーボール連盟	

※いずれも6人制で実施

幼稚園児から80歳以上の人まで、**70万人(\*)**と言われる愛好家たちが活動しています。

※スポーツ安全保険へのバレーボールでの加入者数による







日本人の人口が減っている中、年度での変動、世代ごとでの違いはあるものの、概ねバレーボールの登録している競技人口は維持していると言えます。

**生涯スポーツの一つとして幅広い世代に受け入れられているのが最大の理由!!**

競技型  
生涯型



全日本代表（国際大会）



Vリーグ（国内リーグ）



ジャパンビーチバレーボールツアー



春の高校バレー  
全日本高等学校選手権大会



JOCユニオオリンピックカップ  
全国都道府県対抗中学バレーボール大会



全日本バレーボール小学生大会



全国ママさんバレーボール大会



ウィンテージ8交流大会

若年層 シルバー層



### ①オリンピック

#### 【位置付け】

IOCが主催するスポーツの祭典。バレーボール競技は男女とも12チームが出場。出場権は開催国のほかに5大陸代表各1チーム、残りは五輪の年に行われる予選会で決定する。1964年の東京大会から正式種目に採用され、今日に至る。

【出場国数】男女とも12カ国、合計24カ国

【開催周期】4年に1度

#### 【予選大会】

前年に開催されるワールドカップ(上位3カ国が出場権獲得)、各大陸で行われる大陸予選会、世界最終予選が予選会となる。



### ②世界選手権 (WCH)

#### 【位置付け】

バレーボール界の頂点に位置する大会。サッカーのワールドカップ、陸上でいえば世界陸上に匹敵する権威と伝統がある。IOC加盟国を上回るFIVB加盟220の国と地域に参加への平等の機会を与えられている。たとえ五輪優勝国であろうとも予選会からの出場となるほどの過酷な大会。

【出場国数】男女とも24カ国、合計48カ国

【開催周期】4年に1度、五輪の中間年に開催。

#### 【予選大会】

1年余りを費やして予選会を行い、代表チームを決定する。本大会と合わせ約2年間に及ぶ世界決戦になる。



### ③ワールドカップ (WC)

#### 【位置付け】

ワールドカップが始まったのは、男子が1965年、女子が1973年。世界選手権やオリンピックに比べると歴史が浅い。五輪の前年に行われることから、五輪の前哨戦的色彩がある。

【出場国数】男女とも12カ国、合計24カ国

【開催周期】4年に1度、五輪の前年に開催。

#### 【予選大会】

各大陸で行われる大陸選手権がワールドカップ予選会も兼ねる。ワールドカップ独自の予選会はない。



### ④ワールドグランドチャンピオンズカップ (WGCC)

#### 【位置付け】

オリンピックの翌年に開催され、この年に開催される4大陸(※)選手権大会の優勝4チームと開催国および推薦国(ワイルドカード)の6チームで競われる賞金大会。

※前年に開催されたオリンピック最終順位の上位4大陸が大陸出場権を獲得。

【出場国数】男女とも6カ国、合計12カ国

【開催周期】4年に1度、五輪の翌年に開催。

#### 【予選大会】

各大陸で行われる大陸選手権優勝国がワールドグランドチャンピオンズカップの出場権を獲得。



### ⑤ワールドリーグ (WL)

#### 【位置付け】

男子バレーボール界において、世界トップチームが参加する世界規模のリーグ戦として、1990年にFIVB(国際バレーボール連盟)によって創設された。参加チームはNo.1の座と賞金を懸けて熱戦を繰り広げ、その試合はテレビ・新聞などのメディアを通じて、世界100カ国以上に配信される画期的な大会である。

【出場国数】男子のみ36チーム

【開催周期】毎年開催。



### ⑥ワールドグランプリ (WGP)

#### 【位置付け】

国際バレーボール連盟(FIVB)がアジアでのバレーボールの発展を目的として、世界の強豪28チームを揃え、アジア地区を中心に開催する国際大会。予選ラウンドと決勝ラウンドが行われ、決勝ラウンドは予選ラウンドの上位5チームと開催国(2016年はタイ)を加えた6チームで開催される。

【出場国数】女子のみ28チーム

【開催周期】毎年開催。

多くの国際大会を日本に誘致、開催しているにもかかわらず、国際連盟が規定する規模の会場を押さえることが非常に難しくなっています。



## 7.日本における国際大会の開催実績（過去20年間の実績）

	オリンピック予選		世界選手権 (WCH)		ワールドカップ (WC)		ワールドグランドチャンピオンズカップ (WGCC)		ワールドリーグ (WL)	ワールドグランプリ (WGP)
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1997							○	○	○	○
1998			○	○						
1999					○	○				
2000	○	○								
2001							○	○	○	○
2002									○	○
2003					○	○			○	
2004	○	○							○	○
2005							○	○	○	○
2006			○	○					○	○
2007					○	○			○	○
2008	○	○							○	○
2009							○	○	○	○
2010			○	○					○	○
2011					○	○				○
2012	○	○							○	○
2013			○ (予選)	○ (予選)			○	○	○	○
2014									○	○
2015					○	○			○	○
2016	○	○							○	○

※大会が開催されない年は灰色にて塗りつぶし。また2017年以降も既に開催決定大会あり。



バレーボールは、ここ20年だけを見ても、  
毎年国際大会を日本に誘致し、開催しているという実績があります。  
しかし、いざ国際大会を開催しようとする大きな壁に直面することになります。



国際大会を開催できる規模の会場が東京ですら数が少なく、その上、  
それらの会場を使用したいという多くの競合がひしめき合っているという現実があります。

他のアリーナ  
スポーツ

都民の  
イベント

文化イベント  
(コンサート等)



世界中、日本国内からもアクセスしやすい東京の地に、  
国際大会が開催できる施設をしっかりと用意することこそが、  
**「アスリート・ファースト」**につながるものと考えます。

国際大会ですら会場を押さえにくくなっている中、国内の主要大会になると  
状況はさらに厳しくなっていきます。

また大会開催基準に満たない会場での開催を強行し  
毎回仮設で設備を追加する事態は避けたいと存じます。

毎年開催されるバレーボールの国際大会。  
それ以外にも、1万人規模の集客を見込むことができる国内の大会が多数あります。

大会名	開催期間	集客見込み数
黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会	4月下旬～5月上旬	10,000人/日
全日本小学生バレーボール大会	8月中旬	8,000人/日
天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会	12月中旬～下旬	10,000人/日
全日本バレーボール高等学校選手権大会 (通称：春高バレー)	1月上旬	15,000人/日
V・プレミアリーグ ファイナル	3月下旬	10,000人/日



**国際大会／国内大会を合わせるとバレーボールだけでも、  
都が想定するスポーツの優先利用日（60日）の大半を使用することが可能!!**

またバレーボール界としては各種主要大会のファイナルを有明アリーナに集中させることで  
新たな聖地として「**目指せ有明**」を定着させるよう考えております。





現在の体育館の多くは「観るスポーツ」を想定している作りとは言い切れず、大会開催においては毎回いくつかの壁にぶつかります。

現状で2020年オリンピック・パラリンピックの会場代替案として報道されてきたいくつかのアリーナも現在の国際連盟（FIVB）が定める基準を満たす体育館は1つしかなく、その会場も他競技での使用が決まっています。

開催の度に基準に満たない箇所を仮設で準備することは安定した大会招致・開催のみならず費用の無駄や環境保護に逆行するような行いになりかねず、我々の使命を着実に実現していくことへの影響を強く懸念しております。

我々バレーボール界は社会への貢献を念頭においた長・中期計画を着実に実施してまいります。そのためにバレーボールでは国際大会をも開催でき、また各種スポーツ、エンターテインメントのトップレベルを日本に誘致する大きな武器となるアリーナの建設に希望を抱いております。

アリーナ建設において危惧される後利用による費用回収やレガシー化へ向けて我々は、組織委員会の打ち出す5本の柱に沿う形でアクション&レガシープランを次のように考えております。



## 【2】 アクション&レガシープラン

---



1964年に開催された東京オリンピック。  
その時のバレーボール会場・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館は  
近年の国際大会開催基準を満たしておらず  
しかも改修により、今では当時の姿を残していません。  
**その結果、バレーボールが失ってしまったものがあります。**

サッカー



国立競技場

野球



甲子園

ラグビー



花園

**継続して同じ会場で開催**していくことで、多くの人たちの心の中に残り、  
すぐにイメージとして浮かび上がってくるものがあります。



**有明アリーナを、新たなバレーボールの聖地へ!!**

国内外、競技／生涯スポーツの別を問わず、バレーボールに関わる人たちの  
**憧れ**であり、**夢**であり、**目標**となるシンボルへと昇華させていきます。





### 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会が掲げる「アクション&レガシー」について



2020年以降も継続したアクションでバレーボールのレガシーを創出。



この5つの柱の一つひとつにバレーボールができることを考え、それに対して具体的な「解」を出していく。

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会HP (<https://tokyo2020.jp/jp/games/legacy/>) より



スポーツ・  
健康

バレーボールの力でみんなが輝く社会へ

バレーボールは生涯スポーツとして老若男女が、体力やメンバーによって違った楽しみを感じられるスポーツとなっています。だからこそ、世代を超えた「絆」を育み、そこで生まれた人と人との関わりを未来へとつないでいきます。

街づくり・  
持続可能性

展開案①バレーボールを活用した世代間交流イベントの開催

展開案②バレーボールを活用した健康増進プログラムの開発／展開

文化・教育

経済・  
テクノロジー

復興・  
オールジャパン・  
世界への発信





スポーツ・  
健康

街づくり・  
持続可能性

文化・教育

経済・  
テクノロジー

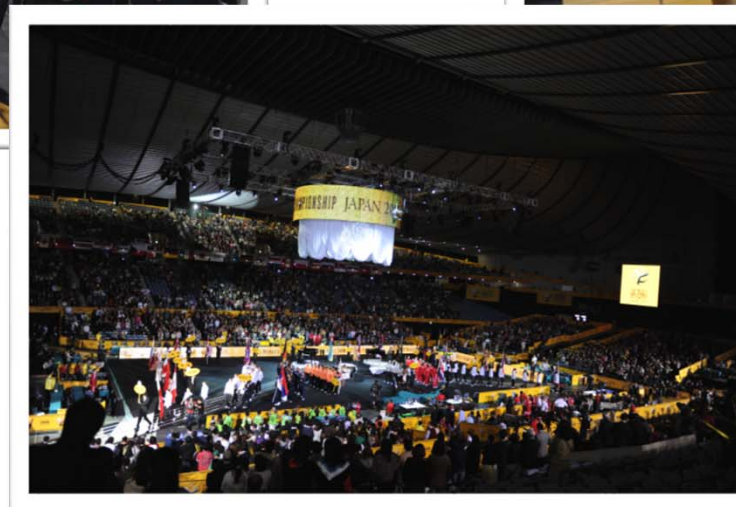
復興・  
オールジャパン・  
世界への発信

バレーボールがある持続可能な街づくり

**年齢を問わず続ける**ことができるバレーボール。まさにバレーボールがあるということで住む人や訪れた人たちは、持続可能な社会に足を踏み入れたことに他なりません。老若男女が楽しめるバレーボールを核にして、**持続可能な街づくりをサポート**してまいります。

展開案①競技／生涯スポーツとしてのバレーボール大会の開催

展開案②各世代を対象としたバレーボール体験会の開催







スポーツ・  
健康

街づくり・  
持続可能性

文化・教育

経済・  
テクノロジー

復興・  
オールジャパン・  
世界への発信

継続した国際大会開催のアドバンテージを活かした人的・文化交流の実現

スポーツの国際大会は、異国の人たちを受け入れ、その人たちと交流をすることに他なりません。毎年国際大会を開催してきているバレーボールだからこそ、これまで培ってきたノウハウを最大限に活用し、日本選手、外国人選手たちの協力を仰ぎながら、バレーボールの魅力と共にオリンピックに出場した国々の魅力を伝えてまいります。

展開案①

教育関連施設／老人介護施設等の訪問  
活動の実施

展開案②

バレーボールを活用した国際交流イベ  
ントの開催





スポーツ・  
健康

街づくり・  
持続可能性

文化・教育

経済・  
テクノロジー

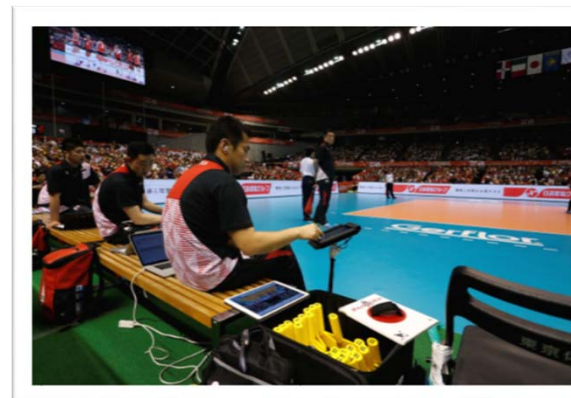
復興・  
オールジャパン・  
世界への発信

「東洋の魔女」に変わる、世界から一目を置かれる「ジャパブランドの確立」

世界に先んじて、バレーボールの「つなぐ」カに着目した日本バレーボール。「つなぐ」をキーワードに、新たな「ジャパブランド」を確立し、世界からの尊敬を獲得し、目指してもらえる目標となることを目指していきます。

展開案①「都民ファースト」「アスリートファースト」を目指し施設運営に参画

展開案②「VR」「ICT」を活用した新たなバレーボールビジネスの開発







スポーツ・  
健康

街づくり・  
持続可能性

文化・教育

経済・  
テクノロジー

復興・  
オールジャパン・  
世界への発信

バレーボール界が一体となり、バレーボールの魅力国内外に発信！

競技スポーツとしてのバレーボールだけに留まらず、生涯スポーツとしてのバレーボール、障がい者スポーツとしてのバレーボール。すべてのバレーボール関係者が一体となり、**バレーボールのレガシーを国内外に向けて発信**してまいります。

展開案①アジアを対象としたインバウンド型指導者向け講習会等の開催

展開案②障がい者バレーボールの普及啓発を目的とした体験会を開催

展開案③バレーボールの歴史や魅力をアーカイブス化してWEB等を活用して配信





有明アリーナはその立地や景観からも、スポーツの試合の開催に関係なく  
都民の皆様をはじめ、多くの人たちが  
**集い、憩い、心を癒す場所**として、  
東京都の新たなシンボルと成り得るものと考えます。

そして…

スポーツが掲げる**スポーツマンシップの精神を後世へとつなげていく**  
2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして残し、  
有効的に活用されていく場となることを期待しております。



2020年東京オリンピック・パラリンピックの後には、バレーボールのみならず、各競技団体の国際大会や国内トップリーグ、全国大会等の開催に際しまして、有明アリーナを使用させていただく予定であります。

有明アリーナは、バレーボールをはじめ、先般、ご提出させていただきました「2020東京オリンピック・パラリンピック アリーナ競技会場建設への提言について（嘆願書）」に名を連ねております、多くのアリーナ競技の発展に大きく寄与するものと考えております。

また国内、海外からの多くの来場を促すような好立地の象徴的な場所としての建設となりますので、地域の活性化やひいてはオールジャパンの注目度向上に至るまで様々な良い影響（レガシー）を生み出すことができるものと確信しております。

有明アリーナが建設されれば、我々は単にユーザーとして利用するだけでなく、東京都と共に有明アリーナの有効活用を考えていくパートナーになれないか、運営の一翼を担わせていただけないかと考えております。

その枠組みができれば我々は積極的に参画を検討し、国際バレーボール連盟もサポートして参ります。

今後も継続的に実施される東京都、日本国政府、大会組織委員会、国際オリンピック委員会（IOC）の4者協議等を経て、有明アリーナの建設が実現することを切望いたします。